

Jカフェ

～～ JAUW ヒューマンリソース活用プログラム ～～

JAUWが誇る最大のタカラは、会員のもてるチカラです。
ここには、豊かな経験、広い知見、深い洞察があります。
ご一緒に、新しい世界を発見、創出、共有しませんか。

第4回 「日米の女性労働運動 ～第一次世界大戦から占領期まで～」

歴史はまさに、His Story、女性の必死の足跡は記述されず、男性中心の記録と検証に満ちています。しかも第一次大戦から占領期では、様々な論考が交錯する時代。貴重な時期に必死に生きた女性たちに焦点を当てたご研究に触れ、その考察に注目します。

日時：2019年7月12日（金）10:30～12:30 受付 10:15～

場所：本部事務所 + Skype 中継

講師：竹内みちこ氏

募集人数：会議室 30 名+Skype 利用

参加費：1,000 円（茶菓含む）／Skype 参加はアカウント1つにつき 1,000 円

申込：Fax: 03-3358-2889（本部事務所）／E-mail: jauw.shogaigakushu.iinkai@gmail.com

Skype 参加希望は、上記メールアドレスへ

【竹内みちこ氏 プロフィール】



カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 歴史学部 准教授 歴史学博士。
千葉県生まれ。UCLA 博士課程在学中にワシントン DC 国立公文書館で一年ほど研究調査を経て、神奈川県にある国立法人 総合研究大学院大学の研究員として横須賀で占領期に関するオーラルヒストリーの調査を行う。本年度の全米人文科学基金（National Endowment for the Humanities [NEH]）日本研究部門の受賞者。専門は占領史、日米関係、女性史、オーラルヒストリー、ポップカルチャー。

<研究の内容>

戦前から活躍した日本女性労働運動家たちの手記や書簡を3カ国（日米瑞）に渡って調査し、彼女達がYWCAなどを通して米国の女性労働運動家たちと戦後まで続く密接な関係があったことを調査。彼女らの戦前からの運動や思想のもとに、占領期の「女性解放」があったと論じています。

- ★ 生涯学習委員会では、JAUWの人材を活かす活動を企画中。他薦・自薦大歓迎！
 - ・「災害を語る」シリーズ化：ジェンダーの視点から、災害に関する経験や提言を収集
 - ・Jカフェ：「あの人にあの話を聞きたい」（経験談、趣味の紹介、専門知識など）
- ★ 生涯学習委員会専用メールアドレス：jauw.shogaigakushu.iinkai@gmail.com



一般社団法人 大学女性協会 〒160-0017 東京都新宿区左門町 11-6-101
TEL: 03-3358-2882（月～金の10:00～16:00）／FAX: 03-3358-2889
E-mail: jauw@jauw.org / URL: <http://www.jauw.org/>

第4回 日米の女性労働運動～第一次世界大戦から占領期まで～

(講師：竹内みち子氏 Ph.D. カリフォルニア州立大学ロングビーチ校歴史学部准教授)

日時・場所：2019年7月12日(金) 10:30～12:30 本部事務所 会議室

参加人数：22名(会議室)+Skype参加：長崎支部(4名)

竹内みち子「日米の女性労働運動～第一次世界大戦から占領期まで～」

報告 嶋田君枝



ご講演をお願いした竹内みち子氏とは、2018年9月に、「藤田たき先生とルル・ホームズ教授の労働問題についての考えを調べています。……」というメールをJAUWのホームページ経由で頂いたことが、今回のお話を聞ききっかけとなりました。ご専門は「アメリカ軍占領期の女性史」です。

講演タイトルの「第一次世界大戦から占領期までの日米女性労働運動」については、最近のJAUWでは、話題としてなかなか取り上げられない時代の話ですから、竹内氏が2019年6月中旬に一時帰国されるという絶好の機会に便乗して、研究のお話を伺うことになりました。

本部事務所には22名の参加者が集い、長崎支部から4名の方がSkypeで参加されました。

竹内氏は千葉県御宿町のご出身です。高校卒業後、冷戦後のアメリカでの新しい社会秩序や政治体制(order)を学びたいと、アメリカ西海岸に留学されました。カリフォルニア州立大学ロングビーチ校に新設された国際関係学部のシャノア・シーバス教授(フェミニストでアメリカの日本女性史の先駆者)に出会い、明治時代のフェミニズム運動や労働運動を学ばれました。その後、竹内氏は「教育を通して、社会のあらゆる差別を無くしたい」と強く思うようになり、研究の道に進まれることになりました。

現在の研究テーマ「占領期の日本女性解放は、どのような背景のもとに、どのような過程を経て、もたらされたか」を、オーラルヒストリー、民族学的アプローチ、写真やポピュラーカルチャー、挿絵・漫画などでの豊富なフィールドワークを中心にお話いただきました。

このテーマについては、近々論文にまとめ、将来的には出版もお考えですので、ここでは、お話の中からいくつか興味深いトピックスを紹介いたします。

1. 第1次世界大戦の終り(1918年)頃、「女性解放とは何か」という議論が盛んになった。「女性労働保護法」を策定し、出産などで仕事を失わないように女性を労働者として定義し、女性自身の給料で自立する「女性の経済的解放」を目指す一派があった。折しも1923年、アメリカ議会に「男女平等憲法修正案」が提出され、この「絶対的な男女平等」を支持する別の一派があり、この二派が1923年以降、アメリカ・フェミニストたちの中で激しい対立を繰り広げることとなる。ハーバード大学ナンシー・コット教授によれば、「この絶対的男女平等と女性保護のどちらが女性解放につながるかという議論は、20世紀最大のフェミニストたちのジレンマ」である。
2. 1920年代(大正末期～昭和初期)の社会的背景は、マルクス主義の疾風怒濤の時代である。日本でもアメリカでもマルクス・エンゲルスの思想は時代の最先端の社会科学理論であった。その考えを女性たちが自分なりに解釈し、特に、エンゲルスの「資本主義社会の女性差別というのは、女性の

生殖機能の利用に社会的差別の構造が出来上がっている」というところから、女性労働保護を主張した。しかし、「女性労働保護法」を支持した団体は、労働組合や左翼系の団体だけではなく、中産階級的な団体もあったことも忘れてはならない。The American Association of University Women(大学婦人協会)、General Federation of Women's Club(婦人クラブ総連合)、YWCA 等が1919年に国際産業婦人会議で女性労働保護を主張したが、これは、当時のアメリカ共産党も支持していた。

注：当時の女性運動家やフェミニストには、上流階級や中産階級出身の人が多く、父親や夫が社会的な地位のある人達が多かった。働かないという選択をせずに、自身で選択して運動に関わった。

3. 占領期から戦後の日本の女性政策は「女性労働保護」を主張するグループによって展開された。「女性労働保護」を戦前から主張・支持していた日本側の女性リーダーたち（加藤シヅエ、山川菊栄、藤田たき、加藤たか、市川房枝等）の存在がある。このリーダーたちは、戦前、アメリカの女性労働保護を主張するグループとYWCAを舞台として密接な交流があった。
4. 「女性労働保護法」を語る時、YWCAの果たした役割は大きい。もともと産業革命により搾取されるようになった女工達を救うことを目指して設立されたが、アメリカでは1907年にIndustrial Program Department(産業部)が設立され、そこが、女性労働保護法のための調査や運動をし、Women's Charter(女性憲章?)の作成に貢献している。
5. 山川菊栄氏が戦後、初代の労働省婦人少年局局長になったという流れは、日米の「女性労働保護」を主張するグループとGHQとの繋がりにから当然の帰着とも言えそうである。

他にも、アメリカの女性労働運動家たちの系譜や、津田塾大学の学長だった藤田たき先生や婦人運動家で政治家（元参議院議員）だった市川房枝さんのアメリカ時代の動静も紹介されましたが、論文の上梓を待ちたいと思います。

現在、6歳のお嬢さんの子育て中である竹内氏は、「仕事を持つ女性の出産の大変さは、産休制度や賃金体系などが絡み、アメリカでも日本と同じ問題が顕在化しており、100年以上前から続くフェミニストや女性労働運動家たちの闘いの目標の一つです。出産・育児が大変でない制度を作りたい」とおっしゃられました。40年前、日本で同じ立場で苦勞していた私は、アメリカの女性解放は日本のはるか先を行っているだろうと羨ましく思っていたので、この発言には、びっくり仰天しました。21世紀に入っても、女性解放は世界的な難題というこの現実！大先輩たちの偉業を知るにつけ、女性解放がまだまだ道半ばである、と再確認することのできたご講演でした。

最後になりましたが、竹内みち子氏に深く感謝いたしますとともに、参加者一同から心をこめて、今後のご活躍をお祈りいたします。



(スクリーンは著作権の関係上、加工してあります)

「カフェの講師を「竹内みち子」さんをお願いした経緯

梅田 和子（長崎支部）

2018年9月6日 JAUW のホームページのお問い合わせフォームからカリフォルニア州立大学ロングビーチ校歴史学部竹内みち子准教授からのメールが届きました。

「現在、藤田たき先生とルル・ホームズ教授についての調査をしています。特に、このお二人の女性労働問題についての考えを調べております。JAUW 会報のバックナンバーをインターネットで公開していただき、研究者として、大変ありがたく、感謝しております。」

という内容でした。

海外で JAUW の会報をホームページからご覧いただき、活用されているとの連絡に担当一同驚きと共に嬉しく思いました。

ただ、ホームズ教授の記事が掲載されている1967年10月発行の68号の3,4ページ目が抜けているとのことでした。事務所に保管の会報にもそのページがなく、鷺見会長より、中村道子元会長にお尋ねしていただきました。

何と、51年前の会報をお持ちで、早速事務所へ郵送していただき、原本を寄付してくださいました。直ぐに竹内さんへメールに Pdf を添付して送りました。

「大変貴重な資料を送っていただき、ありがとうございます。とても興味深く拝見いたしました。ホームズ教授と様々な人々や団体との関係性がわかり勉強になりました。素晴らしい歴史的な資料を本当にありがとうございました。」

中村道子元会長にも、私の感謝の気持ちをお伝えしてくださいと、嬉しいです。何かこちらにもできることがございましたら、いつでもご連絡ください。ロサンゼルスにいらっしゃる時は、ぜひご一報を。沢山の感謝を込めて」

とお礼のメールをいただき、その後のやり取りで、2019年6月中旬に一時帰国されるとのこと、その折、彼女の研究のお話を伺うことにいたしました。

当日、竹内さんの講演は戦前アメリカに留学した藤田たき先生、加藤たか（高子）さん、加藤シヅエさん、市川房江さん、谷野せつ（節子）さん等の交流、また、アメリカの女性労働運動家とのネットワーク、そのことが、占領期の女性労働政策に生かされたと、初めて聞く話にちょっと興奮しました。

来年の帰国の際にもその後の竹内さんの研究の続きをお聞きしたいと思いました。

【アンケートから】

- ・戦前の日本の労働・社会運動のリーダーの方々がとても身近に感じられました。もっとこういう人々のお仕事を学びたいとなりました。竹内みち子さんの研究の大きな意義を確信しています。(T.K.)
- ・大変興味深く聞きました。また何年後かに進展が伺えたら、と思います。(N.A.)
- ・竹内先生の女性研究者としての生き方にも（研究はもちろんです）、アメリカでの学生時代～子育てとの両立でご苦労を重ねながら研究を貫く姿勢に感銘を受けました。今日の講座の内容を軸として、図書の刊行を心待ちにしております。ありがとうございました。(S.K.)
- ・本が待たれます。テンポの良いお話で、大変、興味深い内容でした。(K.M.)
- ・女性特有のジェンダーをヒストリカルに学習する良い機会でした。つながっていくネットワークの大事さを先人のご努力をアカデミックに話して頂きました。(E.I.)
- ・たくさんの女子のお名前が次から次へと出現し、未消化に終わっています。本のような形でまとめて下さると嬉しく存じます。(E.M.)

以上